



毎食 大豆食べれば、乳がん発生半減

【東京24日共同】乳がんの発症率を半減させるには、毎食大豆を食べる必要がある。米国の研究チームが、大豆製品を多く摂取する女性とそうでない女性を比較し、大豆製品を多く摂取する女性は、乳がんの発症率が半分以下に抑えられていることを明らかにした。

研究チームは、米国の女性を対象とした大規模な調査データを分析した。調査期間は1980年から2002年までで、対象者は約10万人。大豆製品を多く摂取する女性は、乳がんの発症率が、大豆製品をほとんど摂取しない女性に比べて、約半分以下に抑えられていることが明らかになった。

研究チームは、大豆製品には、乳がんの発症を抑制する効果がある成分が含まれていると推測している。大豆製品には、大豆イソフラボンや大豆レシチンなどの成分が含まれている。大豆イソフラボンは、女性ホルモンの働きを抑制する効果があると考えられている。大豆レシチンは、細胞膜の構成成分であり、がん細胞の増殖を抑制する効果があると考えられている。

研究チームは、大豆製品を多く摂取する女性は、乳がんの発症率が、大豆製品をほとんど摂取しない女性に比べて、約半分以下に抑えられていることを明らかにした。研究チームは、大豆製品には、乳がんの発症を抑制する効果がある成分が含まれていると推測している。大豆製品には、大豆イソフラボンや大豆レシチンなどの成分が含まれている。大豆イソフラボンは、女性ホルモンの働きを抑制する効果があると考えられている。大豆レシチンは、細胞膜の構成成分であり、がん細胞の増殖を抑制する効果があると考えられている。

研究チームは、大豆製品を多く摂取する女性は、乳がんの発症率が、大豆製品をほとんど摂取しない女性に比べて、約半分以下に抑えられていることを明らかにした。研究チームは、大豆製品には、乳がんの発症を抑制する効果がある成分が含まれていると推測している。大豆製品には、大豆イソフラボンや大豆レシチンなどの成分が含まれている。大豆イソフラボンは、女性ホルモンの働きを抑制する効果があると考えられている。大豆レシチンは、細胞膜の構成成分であり、がん細胞の増殖を抑制する効果があると考えられている。

研究成果公開のインパクト(私見)

- ㊦ 疫学研究成果が世の中の人に対し慣れ親しんだものとなってきた
- ㊦ 対象者が自分が参加する研究に親しみをもち、参加の意義を感じられるようになった
- ㊦ 疫学研究に関して、テレビの健康情報番組と異なる科学的なエビデンスのある情報を与えることができた
- ㊦ メディアとの適切な(良好な)関係が保てるようになってきた
- ㊦ ニュース発信のインパクトを評価できるようになってきた
- ㊦ Single report(検証的でない結果)を出すことの危険性を認識できた

「日本における臨床試験に関する新聞報道に関する研究」より

- ㊦ 1992-2007年に5大紙(朝日、毎日、読売、産経、日経)に掲載された臨床試験に関する記事をカウント
- ㊦ 全期間、全新聞を平均すると、約0.07%
 - ┆ 1日2-3記事に相当
 - ┆ 日経は他紙より多い(製薬会社関連記事が多いため)
- ㊦ いくつかのピーク
 - ┆ 1994(ソリブジン)、1996(HIVとCJD)に端を発した臨床試験方法論関係のキーワードを含む記事
 - ┆ 2002(CRC)、2005(医師主導治験)など薬事法改正関連のキーワードがピークとなるが1996の薬害関連記事の10%
- ㊦ 否定的な印象を与える記事が多いため、新聞以外の情報提供手段を利用するのが重要かもしれないと結論

臨床試験の新聞記事と 扱われたキーワード

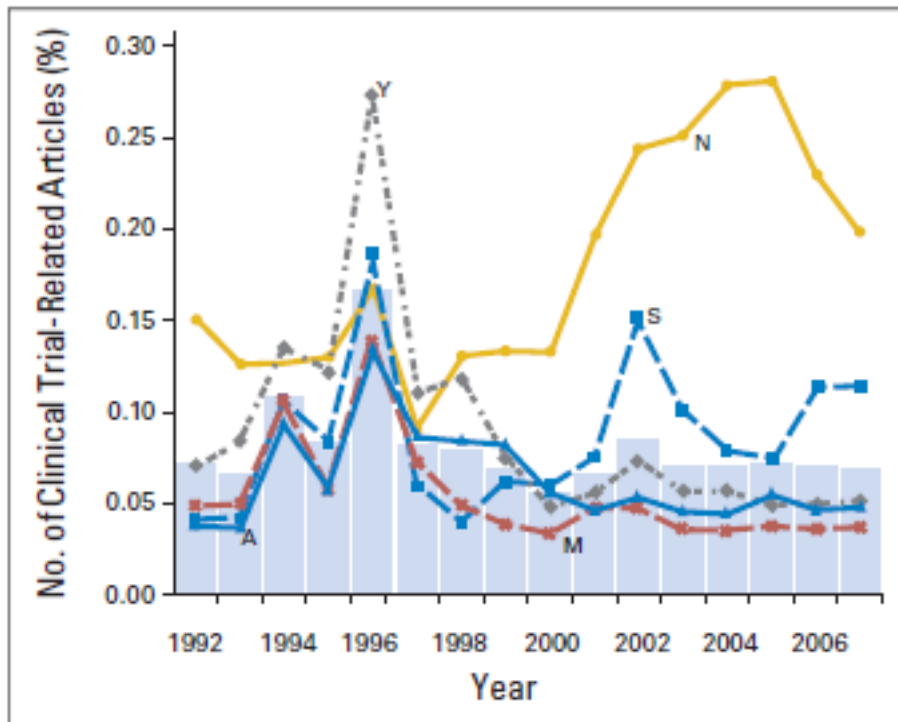


Fig 2. Ratio of clinical trial-related articles to the total number of articles. Bar, five newspapers taken together; A, Asahi; M, Mainichi; Y, Yomiuri; S, Sankei; N, Nihon Keizai.

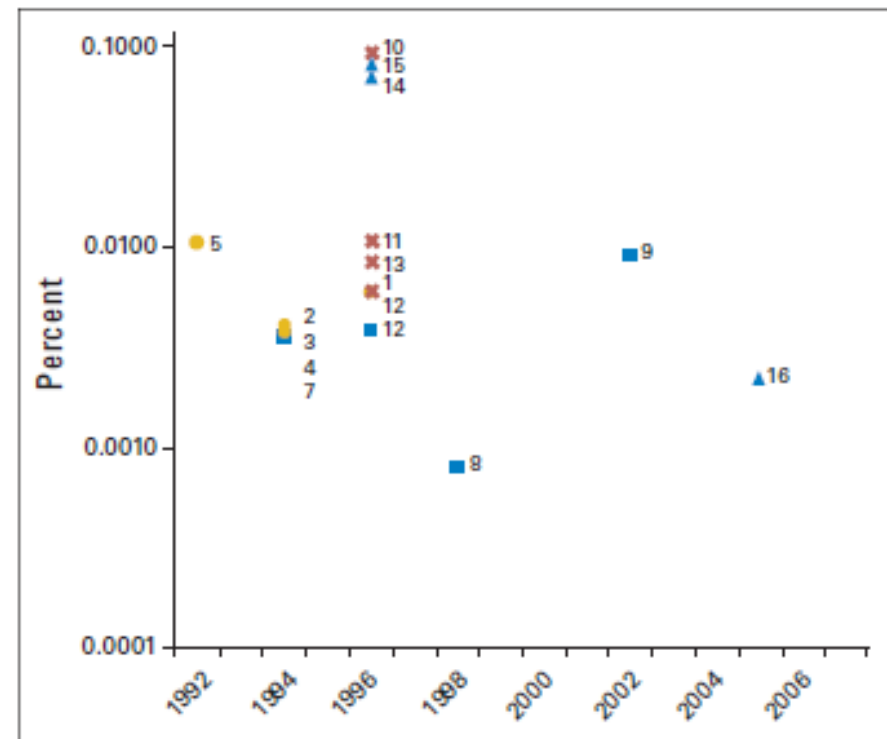


Fig 3. Peak year of the ratio of articles containing each keyword to the total number of articles. (yellow circle) phase-related words; (blue square) procedure-related words; (red ×) political words; (blue triangle) others. 1, phase I study; 2, phase II study; 3, phase III study; 4, phase IV study; 5, preclinical test; 6, randomization; 7, protocol; 8, Good Clinical Practice; 9, coordinator; 10, Ministry of Health, Labour and Welfare; 11, Pharmaceutical Affairs Law; 12, guideline; 13, ethics; 14, investigational drug; 15, lawsuit; 16, doctor-led model clinical trials.

5カ年計画達成に対するIMPLICATION

- ㊦ 国民は医学研究結果が十分知らされていると思っていない
 - ┆ 結果がよく報道されている分野にはいいイメージを持っている
- ㊦ 臨床研究分野は研究成果の提供があまり行われておらず、必ずしもイメージが良くない
 - ┆ 報道されている内容は否定的な印象を与えるものが多い
 - ┆ 成果の発信によってイメージを変えることは可能
- ㊦ 様々な手段を通して研究成果の発信は可能
 - ┆ 新聞やテレビなどのメディアを通して広く発信
 - ┆ (潜在的な)対象者への還元などある程度特定した発信
 - ┆ 研究者レベル、施設レベル、国レベル、それぞれで行うことが必要
- ㊦ 中核・拠点病院でできることは何か？